

議 事 録

件 名	第 3 0 回自殺予防対策委員会
日 時	令和 6 年 4 月 2 3 日（火） 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 1 5
場 所	久留米市役所 3 0 1 会議室
出席者	委 員 内村委員長、大治副委員長、熊本委員、棚町委員、石井委員、漆原委員 田中委員、乙丸委員、岡村委員、倉富委員
	事務局 豊福主幹、新村補佐、古賀、田中（安全安心推進課） 伊藤主幹、神代主査、寺崎主査、池田（保健予防課）
欠 席 者	寺崎委員、一丸委員、時安委員、吉村委員、東野委員
傍 聴 者	無し
次 第	1. 開会 2. 協議事項 （１）2023（令和５）年度実績及び 2024（令和６）年度方針（案）について （２）セーフコミュニティ認知度向上・取組の裾野拡大について （３）合同対策委員会について 3. その他 （１）令和 6 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案） （２）その他 4. 閉会
質 疑	<u>1. 開会</u> ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 <u>2. 協議事項</u> <u>（１）2023（令和５）年度実績及び 2024（令和６）年度方針（案）について</u>
委 員 長	2023 年度に依存症関連の事業に力を入れたということで、今ギャンブル等依存症も話題になっているが、依存症から市民を守る会の現状はどうか。
委 員 ①	ギャンブル等依存症は、借金が絡んでくることも多い。すると、どんどん自己評価が下がり、自分はどうしようもないという思いが強くなり、うつ病になっていく。依存症と診断を受けた者は自殺率が 3 ～ 4 倍になり、依存症者の 7 ～ 8 割は自殺を考えたことがあると言われている。依存症の回復にも力をいれないといけないと考えている。
委 員 長	実際に自殺企図を起こしたというケースはあるか。
委 員 ①	自助グループの仲間のうち、年に 1 ～ 2 人が自殺企図を起こしている。自助グループ内で起こることは珍しくなく、メンバーは仲間意識が強いので、そういった情報も入ってくる。

委 員 長	市では、自殺企図者をいかに精神科につなぐかというのを「自殺未遂者支援」として行っているが、これがなかなか難しく、精神科につながらず繰り返すケースが問題になっている。その中に依存症が絡んでいるものがあると思うが、そういう方にとって自助グループが一つの受け皿になって、ゲートキーパーとしての役割を持ってくれていると思う。また個票７－②にも記載しているように、医師会と弁護士会との連携で、自死問題を抱える方の無料相談を受けているものがある。これまでに、ギャンブルで借金がある方の自己破産等の対応をしてもらい自殺を防げたという報告もある。ギャンブル等依存症の治療はなかなか難しいが、自助グループの存在は大きい。
副 委 員 長	聖ルチア病院でも、救急病院から自殺未遂者として紹介されてきた患者さんの中に、借金問題を抱えた方もいる。ゲームの課金やＦＸの投資なども。そういった方をＧＡにつないだりしている。アルコール依存症は肝障害をきっかけに運び込まれることが多いが、ギャンブル等依存症は借金からうつ病などの問題を抱えて運び込まれることがある。
委 員 長	民生児童委員として、子どもの依存症に関する相談を受けることはあるか。
委 員 ②	今のところそのような相談はない。
委 員 長	こども子育てサポートセンターではどうか。
委 員 ③	把握していない。
副 委 員 長	市販薬の過量服薬が若者の間で広がっている印象がある。薬物で意識がもうろうとなり、飛び降りようとするケースなどがある。
委 員 長	学生が小中学校で薬物についての講義を受けることはあるのか。
事 務 局	そのような情報は把握していないが、昨年度末に薬剤師、登録販売者等を対象にゲートキーパー研修を実施した。薬剤師は薬物乱用についての認識が強くあり、一般の市販薬についてもご意見をお持ちの方がいた。今ご指摘のところについても、今後検討していく必要があると考えている。
委 員 長	福岡県の薬物依存関係の会議が年１回あり、薬剤師会が中学校での啓発・教育をしており、高校に入ってからでは遅すぎると話している。
安全安心推進課事務局	防犯対策委員会では、警察が中学校・高校で、暴力団に入らないようにという講話とともに、薬物乱用の講話もしていると聞いている。

委 員 長	薬剤師から専門的に話してもらい、どういう悪影響があるのか医学的に説明してもらうことが大事。今飲んでどうなるのか、将来どう影響が出るのかという話をしないとなかなか伝わらないかもしれない。大麻がとても流行しており、ネットでも簡単に手に入ってしまう。今後も教育に力を入れていければいいと思う。 <u>(2) セーフコミュニティ認知度向上・取組の裾野拡大について</u>
委 員 ②	各校区コミュニティセンターにのぼり旗は配布しているか。
安全安心推進課事務局	全コミュニティセンターに配布しており、看板や小さいサイズののぼり旗も設置してもらっている。
委 員 ③	時期は未定だが、ヤングケアラー講演会にてのぼり旗の設置と啓発物やチラシの配布ができる。
委 員 ④	市民向け講演会を年1回、秋～冬に開催しているので、のぼり旗を設置できる。また課で作成する啓発物（ゲートキーパー手帳やしおり）にロゴを掲載できる。セーフコミュニティ啓発月間では、街頭啓発への人員配置など、安全安心推進課と相談しながら協力していきたい。
委 員 ⑤	イベント等を行っている課ではないのでのぼり旗の設置は難しいが、市役所3階の生活自立支援センターに啓発チラシ等の設置はできる。
委 員 ⑥	労政課の関連施設と調整して、できるだけのぼり旗を設置したい。また商工労働の広報誌を年2回発行しており、これまでも保健予防課と連携して自殺予防の記事を掲載してきたが、セーフコミュニティの啓発に関しても協力していきたい。今後、広報誌を送る封筒にもセーフコミュニティのロゴを掲載したい。
委 員 ⑦	市民向けのボランティアフェスティバル等で啓発は協力できる。また、校区のサロン等、主に高齢者の方を集めた会合にて、出前講座ができると思う。まちカメボランティアについて、公用車にドライブレコーダーが付いているので協力できるかと思う。
委 員 ①	依存症から市民を守る会では、年3～4回、薬物乱用防止及び飲酒運転撲滅活動を実施しているので、その際にのぼり旗や啓発チラシを設置することはできる。1回につき200部くらい必要かと思う。
委 員 ⑧	市内に消防支所が5か所あるので、そこにのぼり旗を設置できる。特に本部は防災センターを併設しているので、若い世代にも見てもらうことができるかと思

	う。また、一般公募の救命講習会を年５回、定員６０名で予定している。そのような機会に啓発チラシを配布できる。
安全安心推進課事務局	たくさんの意見をいただき、ありがたい。啓発活動の際には声をかけてもらえたら、事務局として準備していきたい。市役所の１階でもセーフコミュニティの啓発コーナーを設けており、３月に保健予防課と協働でチラシ等を設置したところ、啓発物を手に取ってもらえたり、相談につながったケースもあったと聞いた。何がきっかけで知ってもらえるかわからないので、今後とも啓発にご協力いただきたい。
委 員 ②	民生委員児童委員協議会は４６校区で定例会をしているため、その際にチラシの折り込みをして、できればセーフコミュニティの担当者が説明に来てもらえるとよいのではないか。民生委員が５８０名程おり、その人達からチラシを配布してもらうという方法もあると思う。今年度の実施計画にもセーフコミュニティへの積極的参加をあげている。
安全安心推進課事務局	民生委員児童委員も数年に１回交代するので、まだセーフコミュニティについてご存知ない方にも周知をしていきたいと思う。昨年は大雨で中止になった研修会等も活用させていただきたい。
副 委 員 長	安全安心のまちを作る意義そのものを考えてみると、内部への周知はもちろんだが、外部に発信していくことが重要ではないか。例えば福岡県内の他の市町村に「久留米市は安全安心のまち」と発信して、人口の流入を促すというのが最も大きなアピールではないかと思う。マンションの管理会社や住宅メーカーなど、人が移り住むような広告に掲載するのはどうか。
安全安心推進課事務局	安全安心なまちというのはまちづくりの基本だと思うので、例えばプレスリリース等の手段を使ってメディアに取り上げてもらうような仕掛けも考え、対外的なアピールを考えていきたい。
委 員 長	実際これまでに外部への情報発信の実績はあるか。
安全安心推進課事務局	直近のことになるが、昨年度のプレスリリースで、体感治安の向上を読売新聞の福岡版で取り上げてもらった。インターネットで毎年「久留米市は治安のいいまちか」というアンケートをとっており、初めてアンケートをとった平成２６年では６７％だったが、昨年度は８４．５％まで上がっており、市民の間にも安全安心のまちが浸透してきたという内容を発信した。
委 員 長	福岡県内で久留米市の他にセーフコミュニティの認証都市はあるか。
安全安心推進課事務局	福岡県内はなく、九州では久留米市、鹿児島市のみ。

副 委 員 長	熊本県にT S W Cの半導体工場ができており、久留米市が熊本県や福岡市のベッドタウンとして便利で、安全安心のまちというアピールをしてもいいのではないか。人が集まってくる活気のあるまちづくりの一つの起爆剤として、新幹線沿線等にもセーフコミュニティの周知をしていくといいのではないか。
安全安心推進課事務局	自殺予防一つとっても、このような会議体で分析や意見交換ができる場というのが、他の自治体にはないものだと思う。今後対外的なアピールにも力を入れていきたい。
委 員 長	まちカメボランティアのような取り組みは他の自治体でもやっているのか。
安全安心推進課事務局	全国的には警察と企業が協定を結んで、従事中のドライブレコーダーのデータの情報提供をしてもらうという仕組みがあるが、久留米市では一般市民にも協力してもらうという意味では、取り組みが広がったと思う。監視的な意味ではなく、普段から防犯活動に取り組んでもらう市民を増やしていきたいと考えている。
	<u>(3) 合同対策委員会について</u>
委 員 ②	初めに講話があり、その後意見交換があったが、事前に意見交換のテーマについて伝えてもらっておくと、準備する時間ができてよいと思う。
委 員 ⑥	去年は災害がテーマだったが、年初に能登地震もあったのでテーマとしてはタイムリーだったと思う。やはり事前にテーマについて知っていた方がよかった。今後のテーマとしては、8つの対策委員会の取り組み内容をピックアップして、そのことについて話し合うのも面白いのではないかと思う。
委 員 ⑦	ワークショップなので何か結論を出すものではないが、全体の印象としては慌ただしくて、少し消化不良だったかと思う。しかし、時間としては丁度良いと思う。
委 員 ⑧	意見交換で初めて会う方も多く、様々な意見が聞けてよかった。先ほどから意見が出ているが、テーマを早めに伝えてもらって、準備をしたり、他の人の意見も取り入れられるのでいいのではないかと思う。
安全安心推進課事務局	合同対策委員会を通して、何か一つの結論を出すというよりは、皆さんで協議する場を作っていきたいと思っている。時間やテーマを含めて検討していきたい。

<u>3. その他</u> <u>(1) 令和6年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案）</u>	
委 員 ①	市議会との連携はどうなっているのか。
安全安心推進課事務局	市議会の方に直接会議体に入ってもらうことはないが、議会等で報告をしたり、イベントに来てもらったりしている。
<u>(2) その他</u>	
副 委 員 長	久留米市がメディアで取り上げられるのが、大雨等の災害関係が多い。災害自体を防ぐのは難しいが、災害が起きても安全だということをアピールしてほしい。
安全安心推進課事務局	災害対策については、ハード面では経年的に様々な対策をしているため、ソフト面で安全安心のアピールをしていきたい。
委 員 ②	資料に自殺者の推移があるが、このような情報は学校関係者には周知しているのか。
事 務 局	庁内で部長級・次長級の会議があるので、そこで周知を図っている。そこからどのように現場に伝わっているかまでは把握できていない。
委 員 ②	学校関係者と話すときに、自殺に関する話はなく、虐待や不登校について話すことが多い。より多くの学校関係者に、自殺の現状を知って、学校としての対応を考えてほしいと思っている。
委 員 長	不登校に関連した自殺も多く、メディアでも取り上げられていると思う。自身も久留米市教育委員会の委員で、久留米市では十分認識している。一方で、学校で自殺問題は取り上げにくいという現状もあったが、SOSの出し方教育などにより、啓発も随分進んできたのではないかなと思う。
<u>4. 閉会</u>	